

會。会場は飯坂赤川温泉泉洲閣、さいふ通知は、一週間前に發せられ、其出缺を確定。予は其の前夜、ハワイ視察團一行を案内して花水館に泊り、早朝

長老にして聖徳の極威加藤兄が、老書を繰り、天神を以て各自が、全部に麗筆を揮ひ、以下各り、自作他作の嘉言名句、和歌俳句等々、達筆秀筆を揮ふ。

八、自畫の面
酒問、係より一同に、紙よりの

内郷村報の 六大使命

一、政權改革を期して、村公實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、組織和進努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。

四、村内の慈善興行を奨励し、恩之を蒙る。
五、本村を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナレ
ルベシ

布哇東亞視察團 歡迎會の概況

福島縣海外協會 大内民恵
常務理事

一、はしがき
本紙四月號「京濱四日間」の記事中、予が三月三十日に、本縣海外協會を代表して、布哇東亞視察團一行を、横濱埠頭に迎へたことを書いてあつた。其一行が二十日間わたつて、全國各地を視察見學して、四月二十一日に福島に歸着するといふ、日程表を手にしたので、之が歡迎方法を講ずることとなつたのである。

二、其準備

本會當局たる橋本會長（知事）和田（學務部長）佐藤（福島市長）兩副會長、渡邊常務理事（職業課長）と協議して、井上（社會課長）稻村（保安課長）大原（醫博）菅野（陸軍大佐）の各理事及本會の事業に熱烈なる關心と誠意とを有する會員大室（野田校長）の諸氏と熟議の結果、歡迎會の趣向お土産物の調達、其經費の出途等々に就いて、大體成算が立つたので四月八日附を以て、日程表によつて、十三日熊本市研屋旅館に投宿せらるゝを見越して、東海林團長に歡迎會開催の案内狀を發したるに對し、同氏より十四日附を以

二、其前日

特に東京からは、はるばる鈴木七郎氏が馳せ参じ、市外渡利の富田馬之丞氏が驅けつけて、夫々輪旋の勞をさらされ、大室校長又公務

て、其時間なし遺憾ながら辭退するといふ返電があつたので、それではせめてお土産品（縣下各地の名所舊蹟案内並繪葉書等を夫々其旨を通じて貰ひゆく）を丈でも取揃へて贈呈しやうと、其段取りに着手し、數日を過ぎて十七日に至り、突如團長より御厚意を謝し四十二名歡迎をうけるといふ電報に接したので、再起其準備にむかひ、特に大室校長に應援を乞ひ須田市學務課長、菅野同書記、鈴木第一校長、同佐藤首席、等の配慮を煩はし、會場（第一小學校）献立並其註文、餘興、各種印刷物の作製、案内狀の發送（協會役員市を中心し女師校以下十九校に在學する布哇二世及其保護者並其校長等百有餘名）等々に狂奔、殊に十八日の如きは、野田校に於て校長以下職員數名を煩はして、夜半迄もかゝつたといふ有様であつた。



中央より右 團長 佐藤副會長 橋本會長 大原理事

三、其當日
此日生憎雨、朝より關係者一同總動員して待機、午後四時、大室

の餘暇を割いて奔走之れ努められ萬遺漏なく、其準備を了するこゝが出来た。而して午前十時半、福島驛を通過して、仙台北に向つて北下する視察團一行を、渡邊鈴木の

校長が、歡迎會員を受附くべく福島驛前に出動、次いで佐藤副會長大原渡邊各理事、縣職業課職員、富田鈴木等の諸氏が一團となりて歡迎旗を押し立て、驛に迎へ、之を擁して會場に至れば、橋本會長井上稻村の各理事を始め各關係者も來り會し、先づ講堂に於て記念撮影を行ふ。正賓は四十二名（内本縣人三十名）之を迎へたる會員は、會長以下百二十余名（内在縣第二世五十三名、其保護者及其在學各學校長十余名）の多數であつた。此寫眞に準備の爲活躍中の大室校長を逸したのが遺憾に堪へなかつたので、時に氏の寫眞を燒き添えんことを許りたるに、謙遜堅く之を否まれたるには、大樹將軍の故事を思ひ浮べて其徳を多しした事であつた。

かくて一同作法室にしづらへた會場に入る。

白布をおほへる卓上には、プロگرام、詳細なる名簿、菓子、壽司、飲料、お土産（繪葉書類と麥煎餅）等々を、色とりどりの草花を以て飾られてあつた。

席定まるや、渡邊常務司會の役を承り、先づ宮城を遙拜し、默禱を捧げ、會長、副會長、理事（大原）第二世（在福女師生後藤トキ子嬢）と、夫々の立場から、其感想希望等を織り込んだ、歡迎の辭を述べて、一同に深き感銘を興へ次いで團長東海林甚七、團員廣田シゲノの兩氏が、莊重、簡潔、達意の謝辭があつて、茶話となり、無邪氣なる第一小學校生、清麗なる家政校生等の、心をこめた數番の學藝によつて、一段の興を添え、プロハナイを合唱し、萬歳を三唱して、午後八時半に閉會、一行を福島電鐵線に見送つて解散し、鈴木氏と予とは、會を代表して飯坂

花水館迄之に隨伴、其解團式に参列、泊りを共にして一夜を語りあかした。

四、其翌日
翌朝七時、團員一行を、満開の櫻花に包まれた陸軍病院に御案内在院中の傷病將兵各位を慰問し、宿に戻りて朝餐を共にし、再會を期して堅き握手をかかし、心中密

海外協會役員

| | | | |
|------|------|----|-----|
| 會長 | 知事 | 橋本 | 清吉 |
| 副會長 | 學務部長 | 上塚 | 弘 |
| 副會長 | 福島市長 | 佐藤 | 澤 |
| 常務理事 | 職業課長 | 渡邊 | 太郎 |
| 理事 | 特志家 | 大内 | 民恵 |
| 理事 | 保安課長 | 稻村 | 六郎 |
| 理事 | 社會課長 | 井上 | 理 |
| 理事 | 貴員議員 | 諸橋 | 久太郎 |
| 理事 | 貴員議員 | 釘本 | 衛雄 |
| 理事 | 縣會議長 | 小松 | 茂藤治 |
| 理事 | 同副議長 | 太田 | 秋之助 |
| 理事 | 縣會議員 | 深谷 | 新之助 |
| 理事 | 同 | 大内 | 一郎 |
| 理事 | 同 | 岩崎 | 光衛 |
| 理事 | 同 | 大木 | 代吉 |
| 理事 | 同 | 二瓶 | 謙二 |
| 理事 | 特志家 | 大原 | 八郎 |
| 理事 | 同 | 菅野 | 竹治 |
| 理事 | 農銀頭取 | 白石 | 禎美 |
| 理事 | 同 | 大田 | 三郎 |

かに御蔭様で、まがりなりにも其任務を果さして頂いたことを喜びながら宿を辭したのであつた。

最後に、此度の歡迎に對して、助力聲援を賜はりたる關係各位、並にお土産品を寄贈せられた、縣下各市町村當局に向つて心からなる感謝の意を表して擲筆する。

本報定價 一部金五圓一年費共金四十九圓
發行所 福島縣石川郡内郷村宮子官邸二
編輯部 福島縣石川郡内郷村宮子官邸八四〇
印刷所 福島縣平田二二九
行發日五十月一年

松風に誘ひ出されて蝶々舞ひ
感 懷 本多 忠綱
去年今年同じ花時同じ雨
人はかはらず嬉しかりけり

石城郡 方面委員 聯合會總會報告

聯合會書記 野木久彌

一、日時、四月二十四日午前十時開會。二、會場、淺野記念會館三、順序。イ開會の辭(大内會長)ロ宮城遙拜。ハ黙禱。ニ會務報告(田口副會長)。ホ役員選舉。ヘ會員の取扱事項發表。ト上遠野縣屬の講話。チ阿部國民精動縣主事の講演。リ平陸軍中佐の講演。ヌ閉會の辭(會長)。

勅語奉讀

武運長久祈願

五月十五日議事堂に於て村内各名譽職、各團體代表多數參列して、軍人援護に感ずる勅語奉讀式並出征軍人の武運長久を祈願した。

無言の凱旋

五月五日今次事變に名譽の戦死を遂げられた左記六勇士の遺骨が近親に捧持せられて平綴兩驛に凱旋せられたので村内各名譽職團體代表等多數が、肅然之を奉迎した。

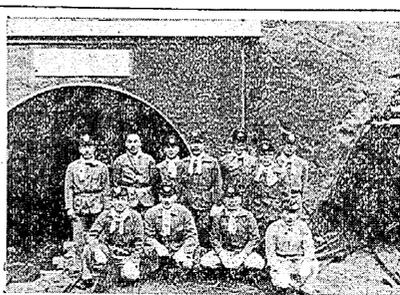
平中佐の特志

石城郡方面委員聯合會總會に於て、講演せられた磐中配屬將校平顯美中佐に對し、大内會長が特に訪問の上、挨拶を兼ねて金一封を贈呈したるに、手に觸れられず、其儘内郷村統後會に寄贈せられ、流石はと關係者をして感嘆せしめた。

健康者表彰

磐炭健康保險組合にては四月二十三日午前九時より淺野記念館に於て、昭和二年創立以降同十四年末日に至る健康者八百七十二名に對し、其表彰式を舉行し、夫々記念品並表彰状を授與した。其内譯及十三年間健康を保持したる人々の氏名は左の通りである。

- 一年、五二九。二年、一四四。三年、五六。四年、三六。五年、二四。六年、一八。七年、一六。八年、一〇。九年、一三。十年、



員役炭磐と行一官長井新るけに口坑緩

國防献金 金參圓 町田 清野幸吉 社會局 一行來山 四月二十七日社會局長官新井善太郎氏並井上縣社會

青年會の表彰

同會にては、四月二十三日淺野記念館に於て、冬期中夜警の任を全ふしたる全會員に對して、感謝狀に金一封を添へて授與し、又同席に於て、會員中成績優良者及精勤者に對して、夫々表彰を行つた。而して式後前中央青年團理事長香坂昌康氏の「二千六百年を迎へて我國民の覺悟」と題する、有益なる講演があつた。

磐炭記事抄

四月十日、御殿平太郎宮澤の從業員俱樂部に於て、波多凡恩先生の講演會開催。四月十六日、金坂運動場に於て、本年勤績者表彰式舉行。

徵兵検査

五月八日九日、本籍者一三二名、同十一日十二日寄留者二二八名の徵兵検査執行。

豫防注射

第一回自五月十日、第二回自五月十七日、第三回自五月十七日、第四回自五月十七日、第五回自五月十七日、第六回自五月十七日、第七回自五月十七日、第八回自五月十七日、第九回自五月十七日、第十回自五月十七日。

日本評論社

發行所 日本評論社 東京京橋三丁目 取次所 内郷村報社

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民憲著 (四六版二二頁 定價五十錢 税六郵)

内郷村養雞組合設立

本村に於ては養雞業の向上發展を期する爲、五月十日、第五條 本組合の事業年度

佐し組合長事故ある時は之を代理す。評議員は組合の諮問に應じ事業状況を監査し、受託事務の執行を監督し、通過であつた。 調おけさ、上り船、日本堤からかさ節、炭坑節、仰げ軍功、花見道中。以上

關する講演は、至觀衆に多
大の感銘を與へた。
▽平中佐の上海方面の大地
圖を掲げて、之亦一時間半
にわたり、大隊長として奮

上、挨拶を兼ねて金一封を
贈呈したるに、手に觸れ
られず、其儘内郷村銃後會
に寄贈せられ、流石はと關
係者をして感嘆せしめた。

一年、五二九、二年、一
四四、三年、五六、四年、
三六、五年、二四、六年、
一八、七年、一六、八年、
一〇、九年、一三、十年、

▽四月十日、御殿平太郎宮
澤の從業員俱樂部に於て、
波多凡忠先生の講演會開催
▽四月十六日、金坂運動場
に於て、永年勤績者表彰式舉

○本紙贊助金寄贈芳名
金二圓 北海道 小野 昇
金三圓 福井 宮川智補

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民惠著
(四六版二一頁 定價五十圓 稅六郵額)

我が國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地
ノ御試練ニ基ク眞實國國ノ大精神ヲ拜
味仕リ不感感ニシテ申候云々

發行所 日本評論社
東京區三丁目
東京所 内郷村報社

内郷村養雞組合設立

本村に於ては養雞業の向
上發展を期する爲、五月十
日五午後一時村會議事堂に
村内の同業者を招集、其設
立總會を開催、滿場一致を
以て、左の通り組合役員及
組合規約を決定した。

第五條 本組合の事業年度
は毎年一月より十二月まで
とする。

第六條 本組合に左の役員
を置き各々名譽職とする。
組合長一名 副組合長一名 評
議員十名 幹事二名

第七條 役員は任期は二ケ
年とし總會に於て互選す。
第八條 本組合の總會は毎
年一月開會し必要に應じ臨
時總會を開くことを得。

第九條 組合長は組合一切
の事務を統理し組合を代表
す。副組合長は組合長を補

組合役員
組合長、沼田濱之助、副組
合長、金澤爲喜、幹事、齋
藤彌一、長澤文司、評議員
大越萬彌、渡邊二郎、養幸
一、宮本達雄、渡邊忠義、
齋藤廣、平山直藏、高橋勇
野崎正利、丹等。

第十條 本組合に加入せん
とする者は其旨組合長に申
出て承認を経ること。組合
員脱退せんとする時も同じ

第十一條 本組合の經費を
して平等割及前育羽割を
賦課す。但賦課方法及賦課
額は其年の總會に於て決定

す。昭和十五年の經費賦課
方法及賦課額を定むること
左の如し。

第十二條 本組合に評議員
を置き組合長必要と認む
る時之を招集するものとす

第一條 本組合は本村内養
雞者を以て組織し養雞業の
改善發達を圖るを以て目的
とす。

第二條 前項の目的達成の
爲左の事業を行ふ。

一、縣の養雞改良増殖方針に
從ひ之が普及實行を圖るこ
と。

二、飼料又は器具器械の
共同購入並に其斡旋をなす
こと。

三、生産物の販賣斡旋
及受託販賣をなすこと。

内郷村報

共同購入並に其斡旋をなす
こと。3 生産物の販賣斡旋
及受託販賣をなすこと。4
種雞の改良並に衛生施設の
改善を圖ること。5 養雞に
關する調査並に研究をなす
こと。6 其他必要なる事項
第三條 本組合は常時雛二
十羽以上を飼育する者を以
て組織す。

第四條 本組合は内郷村養
雞組合と稱し事務所を内郷
村役場内に置く。

愛國婦人會演藝大會

本村の愛國國防婦人會に
ては、其活動資金作成の爲
四月二十八日を期し、淺野
記念館に於て、晝間(午後
一時より同五時まで)夜間
(午後六時より同十時半ま
で)の二回にわたり、素人
演藝大會を開催した。

演藝大會を開催して、滿
場の會員起立して、遙拜、
黙禱、國歌合唱をなし、愛
國の至誠に燃ゆる、村内百
有余の夫人令嬢の面々が、

勇士戰場に向ふの意氣を以
て、平素其たしなみにもど
修練し來れる各種藝術を、
勇敢に優美に之を公開し、
それに配するに各小學校兒
童の遊戯唱歌等を以てし、
會館もゆるがばかりに殺
到したる參觀者をして、何
れも拍手喝采感嘆措く能は
ざらしめた。其前賣入場券
は、大人二千枚、小供五百
枚に達し、總收入金額は、
祝儀を合せて一千余圓に達

松風會

一、はしがき
其昔本縣を中心として、縣内外
の教育界に於て、其重鎮として將
た其花形として、活躍奮闘、功成
り名遂げた、所謂老教育家の面々
が、當年の意氣體力、未だに發洩
さして壯者を凌ぎ、未曾有の時局
に當面して、脾胃の嘆に堪へず、
悠々自適の生活に安んずるを潔し
とせず、去年の今月、振ひ立つて
結盟發會したのが、松風會である。
一、會員相互の親睦を圖り健康
を保全し兼て社會風教に貢獻する
一、さいふのが其目的であり、一元
教育關係者にして名利の外に超越
し松風會を榮光風雲月を友とする
者一を會員とする組織であつて、
其世話に會員中より三名(目下は
天野近藤藤田)を擧げて、之に當
り毎年一回總會を開いて、過去多
年の蘊蓄を傾け、大抱負大經綸を
放散發表して、其目的の遂行を期
すさいふのである。會費は年額拾
圓、入會希望者は、會員二名の
紹介を要し、年齢は六十歳に達せ
ざるものは断じて入會を許さず、

大内民惠

但し五十五歳に達したる者は、役
員登考の上、特に幼年部に入會を
許ささいふ規定である。
予は辛うじて其資格を有する者
と認められ、藤田高天野三君の紹
介を蒙り、名譽ある會員たるこ
とを得て、第二回總會より、其席
未を汚す光榮に浴したのである。
此の一文は其概要である。

- 一、加藤友之助(七五)
- 二、元福島高女教諭
- 三、吉村 五郎(七三)
- 四、元若松第一校長
- 五、菅野三郎治(七三)
- 六、元石川小學校長
- 七、本多 忠綱(七三)
- 八、元福井師範校長
- 九、佐藤 すぎ(七二)
- 十、元福島高女教員
- 十一、元福島三郎(七二)
- 十二、元福中教諭
- 十三、天野 助治(七二)
- 十四、元郡山第三校長
- 十五、長尾松三郎(七〇)
- 以下四面へ続く

沼田村長の陳情

豫て村會に於て審議決定
した温泉掘鑿事業施行につ
き、村有基本財産使用の件
に關し、五月四日出縣、折
よく登廳中の記者と同伴、
地方課を訪問、陳情したる
結果、不日係官を派遣、其
實地の踏査を受けることゝ
なつた。

内郷村報

六大使命
一、政策推進を期して、村の発展を期す
二、村内外各機関の活動状況を報導し、併せて其協力を期す、組織和進努力の實現を期す
三、本村社会事業の徹底を期す
四、村内の善事善行を表彰し、風を醸成す
五、本村を本村出身者及本村関係者の義務を計り、且其發展向上を期す
六、尙餘力を以て、國民善導に當る

内郷村報の
六大使命
一、政策推進を期して、村の発展を期す
二、村内外各機関の活動状況を報導し、併せて其協力を期す、組織和進努力の實現を期す
三、本村社会事業の徹底を期す
四、村内の善事善行を表彰し、風を醸成す
五、本村を本村出身者及本村関係者の義務を計り、且其發展向上を期す
六、尙餘力を以て、國民善導に當る



尾長 多本 藤加 村吉 野管 幸藤 佐藤 右列前 黒目 内大 内大 高谷 藤近 内野 野天 藤邊 列後

- 元八王子高女校長
九、宮内 榮音 (六八)
元福商教諭
一〇、一谷源八郎 (六八)
元福中校長
一一、近藤節太郎 (六八)
元福商校長
一二、高今朝四郎 (六七)
元福島第一校長
一三、大内亥之次郎 (六六)
元郡山商業校長
一四、目黒 宗英 (六四)
元福島商業教諭

一行と共に陸軍病院を慰問し、正十時會場に馳せ参す。此日生憎雨閣前の櫻花は咲きもつらさず、散りも始めず、赤川の流は相變りざる清冽、座席は打抜きたる二階の三間、既に三世話係を始め、會津の吉村、磐城の本多兩兄等々約半数の先輩が見えて居られた。

是頃には大體顔も揃ひ、一別以來の挨拶から、四方八方の話が交はされつ、先づ何れも一浴して丹前に着換へ、井飯の腹を揉らひ、奥の間に元老組、次の間に中老組、三の間に世話係や、白禿林中薄紅二点の兩姉といふ様に、夫々氣の向いた處に陣取り、閉主寄贈の笹饅頭を頬張りつ、私語綿々、談論風發、大小抱負經綸の放散、まつた子數孫數の發表等々、窓前の櫻花と相俟つて、眞に春風駘蕩。

四、開會
畫頃には大體顔も揃ひ、一別以來の挨拶から、四方八方の話が交はされつ、先づ何れも一浴して丹前に着換へ、井飯の腹を揉らひ、奥の間に元老組、次の間に中老組、三の間に世話係や、白禿林中薄紅二点の兩姉といふ様に、夫々氣の向いた處に陣取り、閉主寄贈の笹饅頭を頬張りつ、私語綿々、談論風發、大小抱負經綸の放散、まつた子數孫數の發表等々、窓前の櫻花と相俟つて、眞に春風駘蕩。

五、寄せ書
其間に讓れて通知されてあつた本會の常例、全會員の寄せ書きが始まる。藤田世話係によつて用意せられてあつた、半切十七枚を全會場にくり廣げられ、やれ書けられ書けと急ぎ立てられる。題字は長老にして書道の權威加藤兄が参考を繰り、天神齋をひりつ、全部に麗筆を揮ひ、以下各自が、自作他作の題言名句、和歌俳句等々、途筆秀筆を揮ふ。

七、世話係の挨拶
撮影を終へて會場に戻れば、心盡しの珍味をもつた食器が配列されてあつた。席次は勿論年長順、但兩姉は特に許されて相並ぶ。世話係筆頭天野兄、達磨眉を夕風にゆるがして立ち上り、會員諸子は、死を忘れて何れも健在、一人も欠くる事なく出席せられ、又新たに菅野、目黒、兩大内四名の入會せられたるは、眞に同慶に堪へぬ。來年否今後幾十年も、無病息災、此會の囀榮を祈るも、あざや

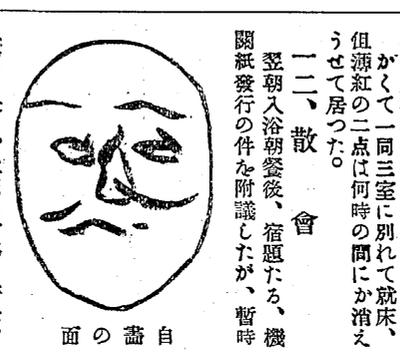
六、雪花の撮影
時しも、目黒兄の斡旋による、特志寫真家來るの報あり、一同ソレ立ち上つて服を着かへる。立ち後れた吉村兄は、着替へるも面倒なり、このまゝでよからう、さりさて獨り……と躊躇少焉、遂に衆に同じて、閣前橋上に打ち揃ふ。長老以下六兄姉は椅子、他は立つて撮影を終る。光頭皎々！白髮皚々！櫻花爛漫！

八、自畫の面
かに挨拶を了し、特に世話係が、福島がらおもたせの銘酒によつて開宴、先づ一同乾杯して、飲む者は飲み、食ふ者は食ひ、談する者は談す。流石は教育家！清楚にして優雅の感を深うす。

九、自慢失敗追憶
次いで係より、イの一番に指名されて一谷兄、それより順次當番者の指名で、大内(民)菅野、加藤、藤田、大内(亥)の過去に於ける、自慢失敗追憶の披露を命ぜられ、何れも拍手喝采をあげ、大内(民)の日本手拭の使ひ分けに入り、道行きかぶりを流するに至るや、佐藤姉が感に堪へざるもの如く、立つて之にすがりつくといふ場面を展開、一座をドット笑はせる。

一一、聯基
次から次、其興は盡きないが、既に酒さ着きか盡きたので、御飯をいたゞいて一先宴を閉ぢ、もごにかへつて園基談笑に夜の更くるを忘る。殊に予は生來始めて知る聯基なるもの、仲間入をさせられた。高、藤田、目黒、長尾の組さ、一谷、天野、兩大内の組さ、黒白に別れ、斷じて他を協調する事なく、各自一手つづを打つのである。優秀混同して相争ふのであるから、へんちきりの場面が現はれて、恰も天狗俳諧のやうな一種の座興を覺ゆるものであつた。かくて一同三室に別れて就床、但薄紅の二点は何時の間にか消えて居つた。

祝電
松風に誘ひ出されて蝶々舞ひ
感懐 本多 忠綱
去年今年同じ花時間同雨
人はかはらず嬉しかりけり



面の畫自

一二、散會
翌朝入浴朝餐後、宿題たる、機關紙發行の件を附議したが、暫時

天法
從人
ナ則
の除暇を割いて奔走之れ努められ萬遺漏なく、其準備を了するに及ぶが出來た。而して午前十時半、福島驛を通過して、仙台に向つて北

四、其翌日
花水館迄之に隨伴、其解散式に参列、泊りを共にして一夜を語りあ

本報發行は内郷一帯の事業に於て、其の地位を確立し、其の発展を期す。本報發行は内郷一帯の事業に於て、其の地位を確立し、其の発展を期す。本報發行は内郷一帯の事業に於て、其の地位を確立し、其の発展を期す。